

II 特別連載 II

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第399回

東京大学の活動報告



古市 由美子
(東京大学大学院
工学系研究科教授)

インドから学生招へい

工学・情報の最新技術体験

東京大学大学院工学系研究科では、2023年12月20日から12月26日まで、インド工科大学カンプル校、ハイデラバード校より合計10名の学生(大学院学生2名、学部学生7名)と教員1名を招へいました。

本プログラムは工学系、情報理工学系に関連する学術的な背景を持ち、日本文化、社会への関心が高く、日本語学習経験がある優秀なインド人学生を対象に、東京大学大学院工学系研究科の教員と連携し、最新の研究成果の共有と各研究室で情報交流を図ることを目的としました。工学者として、各専門の観点から日本の災害とその復興を含むさまざまな技術開発の成果に触れ、さらに日本の社会的文化的背景について知識を深める機会を提供しました。

12月20日に10名が来日し、21日に東京大学での科学技術振興機構(JST)「さくらサイエンスプログラム」が開始されました。午前、オリエンテーション後に、日本人学生によるキャンパスツアーに参加しました。午後は情報理工学系研究科の講義を受講しました。講義では、コンピュータサイエンス学部の学生を中心に本学の情報理工学の専門的な教育・研究を体感してもらうことができました。その後、東京大学のインド人留学生会のインド人学生との交流会を設けました。研究生活だけでなく、日常生活についてざっくばらんに話す機会を提供することによって、日本での留学生活について確認ができたのではないかと思います。

22日午前は工学系日本語教室の日本語クラスに参加しました。すでに日本語学習経験がある学生なので、個々の日本語レベルに応じたクラスで他の留学生に交じって学びました。ランチタイムは、「インターナショナルラウ

プログラムスケジュール	12月20日	到着
	12月21日	ガイダンス、キャンパスツアー 情報理工学講義、インド人留学生会との懇談会
	12月22日	日本語コース授業に参加 工学系研究科ラボツアー
	12月23日	みやぎ東日本大震災津波伝承館見学 石巻市震災遺構門脇小学校見学
	12月24日	池袋防災館見学 日本未来科学館見学
	12月25日	プレゼンテーション、茶道体験 修了式
	12月26日	帰国

ンジ」で全学の日本人学生との交流を楽しみました。

午後からは、工学系研究科の講義を受講後、研究室を見学。世界最先端の研究室での実験やシミュレーションを見学することで研究への関心が高まり、本学への留学をより身近に感じられるようになったようです。

23日は東京駅から新幹線に乗り、みやぎ東日本大震災津波伝承館と門脇小学校の見学をしました。インドでは日本の新幹線方式を採用した高速鉄道が作られており、学生は新幹線に大変興味を持っていました。伝承館では、三陸の津波被害の歴史、東日本大震災津波、復興の取り組みに関わる映像、写真、被災物などの展示物について、ガイドの説明を熱心に聞き入っていました。

また、津波火災による被災状況を残す門脇小学校は、1階は津波と津波火災、2階、3階には津波火災後の状況がそのまま残っており、さらに体験者が語る映像を見ることができるようです。

24日午前は、日本人学生と池袋防災館で地震体験ツアーに参加しました。前日に東日本大震災を見学したため、関心を持って、地震の揺れの体験、初期消火や応急救護、火災の煙からの避難などの日本の防災・耐震技術や



最終プレゼンテーション



新幹線の車内



東大工学系日本語教室



修了式



みやぎ東日本大震災津波伝承館



東大生によるキャンパスツアー

防災意識や管理システムに触れることができました。午後は、日本人学生と日本未来科学館を見学しました。日本の新たな科学技術の魅力や科学技術の進歩が社会とどのようにかわっているかを楽しみながら考えることができました。

25日は今回の「さくらサイエンスプログラム」を振り返り、各自がプレゼンテーションを主に日本語で行いました。その後、国際交流部門長から参加者全員(10名)に修了証とバッジが授与されました。各自の発表報告によると、東日本大震災津波伝承館での展示物や映像、震災遺構である門脇小学校見学によって、日本とインドの共通課題の一つである災害と復興への意識が高まったことが分かりました。日本人学生との交流によって、日本語学習への動機づけが高まり、日本文化への理解が深まったようです。

■ プログラムの後日談

「さくらサイエンスプログラム」の受入れの際、サポートした日本人学生8名とともに、2月25日～3月1日まで、インド工科大学カンプール校(IITK)を訪問しました。この訪問では、12月に「さくらサイエンスプログラム」に参加した学生および先生から熱烈な歓迎を受けました。IITKの学生とともに講義に参加し、大学内のNGO、小学校を見学しました。また、学外の農村や小学校を訪問し、カンプール市内を視察しました。IITK内のビジュアルセンターに宿泊し、インド人学生との密接な交流の機会を得ることができました。各学生は日本文化/インド文化のワークショップを実施し、両国の教育や文化に関するプレゼンテーションを行いました。これらの体験を通して、①インド文化・日本文化理解の促進②異文化コミュニケーション能力の向上③言語学習の動機づけを高め、さらに、大学間の連携強化につなげることができました。今後とも、互いの大学訪問を継続することによって、言語と文化の理解に基づいた高度人材育成の発展に寄与したいと考えます。